

「この人 53」

山下 正純 49歳 愛媛県

編集部 俳句を始められたのは？

山 下 三十歳頃、勤務先の俳句クラブへ誘われて、当初は五十崎古郷先生の御子息の五十崎朗先生に添削をしていただき、御指導を仰いでいました。滑稽俳句は、滑稽俳句協会の創設時に入会を勧められて、取り組むようになりました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

山 下 単純にわかりやすく楽しいこと、それでいて物事の本質を捉えていたりして（笑）、やはり「楽しく生きる」というコンセプトにつながるからでしょうか。自分も人も前向きに楽しくなれ、子供の持ついたずら心を持ち続けられますね。

編集部 俳句における滑稽とは？

山 下 人は本来、不完全で滑稽なもの。ですから人が創った俳句は皆、滑稽俳句に通ずると思っています。少し自論になるかもしれませんが、人は誰も永遠や無限を願う仏心を持っていると思っています。しかし、人の身体は有限です、でも心の中は無限世界、それを十七音に写し込む。滑稽とは、限りある命に由来する「人のあはれを受容した境地」でしょうか。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

山 下 野道など散策して面白いと思った発見を、いったん常識を捨てて、人ではなく対象物である物や生物の視点であれこれ想像してみることに。

＜代表句＞

ニアミスの香水被弾後遺症
千年の恋の行方や炬燵の屁
飛び火して蛍火ひとつまたひとつ
年末のジャンボシャボンの類なり
古寺の釈迦に説法法師蟬